

ニュータウンの歴史と人々の居住経験： 地域の歴史を活用した地域再生

地域共創学部
地域づくり学科
准教授

小池 高史



研究シーズの紹介

高度経済成長期に都市の郊外を中心として造成された多くのニュータウンにおいて、人口減少や住民の高齢化と、それに伴うコミュニティの崩壊が問題となっている。

ニュータウン形成当時から居住し、コミュニティの形成に携わり、そこに居付いてきた人たちは、これまでどのようなニュータウ

ン生活を経験し、どのような思いをもって居続けてきたのか。

資料の収集や住民へのインタビューを行い、地域のこれまでの歩みを記念誌にまとめる。それを住民たちに還元することで、彼らがそれをどう評価し活用することができるのかについて、研究を行っている。



ニュータウンの歴史

- ニュータウンは「歴史のない街」と言われますが、これまでに人々が紡いできた歴史が生まれています。それを収集し、次世代に伝えていくことでコミュニティの活性化を図る取り組みも行われるようになってきました。



宗像市の日の里地区

1961（着工は65）－1971に住宅公団が開発
（1966入居開始）

2017.7末人口 11,830（宗像市97,037）
世帯数5,399（高齢化率34.1%）



地域の歴史の収集作業

期待される活用シーン

- （教育現場）
地域のことを子どもたちに学んでもらいたい。



収集した地域の歴史を教材として利用



- （住民組織）
コミュニティ運営や行事の担い手がいなくなってきた。



住民の生活史を聞き取り、街の記憶として次世代につなぐ



その他の研究テーマ

高齢者の就業における「希望」についての研究